

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立盛岡峰南高等支援学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

- ・非常時に備えて主体的に行動・判断できる力や自ら情報発信する力を身に付けるために、校外での実践をとおして日頃の備えの大切さを知り、災害対応について学ぶ。（そなえる）
- ・非常食や避難所設営などの体験をとおして、互いに支え合い協力することの大切さや生きる力について学ぶ。（いきる）
- ・被災地域でのボランティア活動に取り組んだり、復興の様子を知ることにより、自己の役割を理解し社会貢献の大切さを学ぶ。（かかわる）

- イ 非常時の食料として考えられるものをリストアップし、実際にアルファ米や缶詰等の調理法を確認し、試食した。
- ウ ローリングストック法での備蓄について学んだ。

- (4) 各家庭における避難経路等の確認（3年）
 - ア 卒業後の生活を考慮し、自宅からの避難場所や自宅での非常食の準備についてを確認した。
- (5) 被災地におけるボランティア活動及び見学（流通・サービス科）
 - ア 大船渡市の長洞仮設住宅の窓清掃、気仙光陵支援学校の食堂清掃ボランティアを実施した。

II 取組の概要

(1) 防災避難訓練の実施（全校）

- ア 地震、火災時の避難方法や経路について予告あり、なし、寄宿舎における夜間訓練等、様々なパターンで実施した。
生徒会役員も規格運営に携わった。

(2) 災害体験及び消火・蘇生法研修（1，2年）

- ア 地震、暗闇、煙などの災害体験、放水訓練や心肺蘇生法、AEDの使用方法などの訓練を岩手県立防災センターで研修した。



- イ 陸前高田市内「奇跡の一本松」周辺の復興状況を見学した。

ウ 1年生は陸前高田市内での環境整備ボランティアを計画していたが、実施当日の地震と津波注意報発令により中止となった。

(3) 避難所設営（1年）、非常食体験（1，3年）

- ア シートや段ボールを利用して簡易な休息スペースを作り、体験した。



(6) 情報発信体験（2年）

- ア 携帯電話で災害伝言ダイヤル171と災害伝言板の使い方を体験した。



(7) 復興学習報告会（全校）

ア 各学年で実施した学習について報告し合い、内容を共有した。



Ⅲ 取組の成果と課題

(1) 成果

- ・避難訓練では初めて生徒代表が職員と一緒に計画段階から参加した。実施時間帯や予告無しの計画を生徒が主体的に計画し、内容について生徒の目線で評価し振り返ることができた。
- ・生徒はボランティア活動により「他者から必要とされている」という実感を持つことができた。それによって学習や生活面で意欲の向上が見られた。
- ・携帯電話を利用した災害時の状況について学習したことで電話やメール操作に戸惑う生徒の様子が確認できた。日常的に携帯電話を自由に操作している生徒が非常時には対応できないかもしれないという学習課題が明確化された。

(2) 課題

- ・本校に在籍する生徒は県内各地から集まっているため、出身地域の防災について意識付けするのが難しい。
- ・実施を予定していた被災地見学とボランティア活動が当日の地震と津波注意報のため中止した。内容の変更を行い、防災学習自体は実施することができたが、本来計画していた内容について日程変更をしての実施が難しかった。今後もこのような事態が起こりうると考えて計画を立案する必要性を感じた。